

M E S S A G E

立ち居振る舞いが魅力的な人に

1980年代に、日本が世界一のODA(政府開発援助)大国になって行ったのには、国内的理由と国際的理由の両方があります。

当時、GNP(国民総生産)の1%以内と言われている防衛予算がGNPの増加により増えました。しかし平和外交をする上で、ODAの成長率の方が上回っていないと説明がつかない。そのためにODAを増やした。これが国内的理由です。ところが当時のアメリカはGNPの6%くらいの防衛費を負担していた。それで日本も護っていた訳です。だから日本にもっと金を使えと言って来た。アメリカのタックスペイヤーなどは「我々がこれだけお金を払って日本を護っているのに日本は何をしているのか」と。しかし日本は防衛費を増やせない。そのために「防衛費は抑えているけれど、これだけ平和的に貢献しているんだ」と言うことを国際的にアピールする

必要があった。それで結果的に、世界一のODA大国になった訳です。

つまり、国内に対しては、防衛費の増加よりもODAの増加の方が増えているから「日本は平和外交をしているんだ」と言い、世界に対しては「海外援助、すなわち平和的な国際貢献をしています」と説明をしていた。でも、日本が世界の安全のために寄与している額が少ないのは今でも同じなのに、ODAが減るのは理屈から言えばおかしい。だからODAはやっぱり今後とも増やさないとだめだと思います。

私が外交官として勤務した中で、韓国とタイの両国はODAの優等生だった。しかも、日本のODA予算を非常に良心的に使っていましたね。

韓国は朴大統領の時代で、それまではスラム街みたいな所もあったようですが、日本のお金が入り出してや

っと一息ついた。製鉄所や石油化学工場も作った。この二つが中心となって韓国が発展した。やがて、日本の経済協力から卒業しました。

タイは国民性なんだろうが、ODAは全部、良心的にやっていました。当時は日本が第一の援助国で、日タイ関係も一番良い時でした。援助がごとごとく実り、国の発展に役立って私も嬉しく感じていました。しかし優等生だと早く卒業しちゃうんですね。私が辞めた頃から経済援助は無くなりました。やむを得ません。その後は人道援助とか無償協力です。その頃から、タイの大きな援助は中国になって行きましたね。

今後、韓国やタイのように良い経済協力関係ができるのは、ミャンマーでしょうね。ミャンマーが民主化すれば日本頼りになると思います。ミャンマーは民族性も良いし日本を信頼しています。バングラデシュも良いで

すよ。国旗は緑色に日の丸で日章旗と同じデザインです。相手国が真面目にやってくれるところで親目的ならば、日本の援助は有効ですね。お互いに役に立つ。

私の経験したこの二つの国では、ボランティアや日本の技術者たちも誠心誠意やっていましたし、感謝もされていました。現地に住んでいる方は、日本が援助していることは知っています。日本のお金で外国のゼネコンがやった場合は、そう思われていないという話もありますが、私が経験した範囲では無かったです。もちろん、そういう所もあるんでしょうが。

私は援助の実際の現場にはタッチしていませんが、これから国際協力を担う人には、こうした立派な先輩達が沢山いるので、そういった方々を見習って欲しいと思います。このように、立ち居振る舞いが魅力的な方は、現地の人たちからも尊敬を受けます。

韓国 仁川国際空港周辺施設(写真:初芝成應)

岡崎久彦

OKAZAKI Hisahiko

■プロフィール:

1930年(昭和5)年、旧関東州・大連生まれ。東京大学法学部在学中に外交官試験に合格。中退して昭和27年外務省入省。ケンブリッジ大学経済学部学士及び修士。防衛庁参事官、駐米大使館勤務などを経て、外務省情報調査局長、駐サウジアラビア大使、駐タイ大使などを歴任し退官。第11回正論大賞受賞。主な著書に『隣の国で考えたこと』(日本エッセイストクラブ賞)、『戦略的思考とは何か』(以上、中央公論新社)、『陸奥宗光とその時代』(PHP研究所)、『日本の失敗と成功』(扶桑社)など。現在、NPO法人岡崎研究所所長。

